

資料提供	
令和 2 年 3 月 26 日	
担当課 (担当者)	埋蔵文化財センター (下江)
電 話	0857-27-6711

鳥取県立博物館「歴史の窓」コーナーで「いにしへの祈りの風景」を開催しています

－古代から中世の祭祀具や仏教関連遺物を展示－

鳥取県埋蔵文化財センターでは、一般国道 9 号（鳥取西道路）の改築に伴う発掘調査で出土した多量の木製品の再整理を実施しています。

今年度、保存処理を行った木製品のうち、^{ひとがた}人形などの古代の木製祭祀具や中世の^{そとぼ}卒塔婆などを含めた「祈り」の場で使われた道具類の展示を行っていますので、御多忙な時期ですが、ぜひ取材くださるようお願いします。

記

1 会 期 3 月 24 日（火）から 4 月 19 日（日）

2 場 所 鳥取県立博物館 1 階常設展「歴史の窓」コーナー（鳥取市東町 2 丁目 124 番地）

3 主な展示遺物について

(1) ^{えげ こうげ}会下・郡家遺跡出土^{ひとがた}人形（鳥取市気高町・平安時代）

全長 20.5 cm、幅 5 cm、厚さ 0.9 cm のスギの板材。墨書による顔面や手、衣服の表現がある。髪を垂らした女性と思われ、衣装の裾をまくっているように見える。「天の岩戸」神話の描写と同様で、女性と祭祀の関係を考える上で重要な資料。

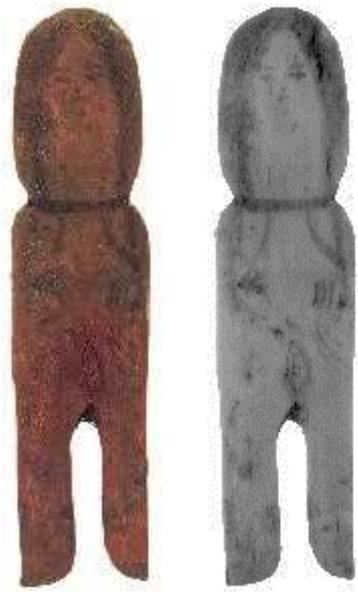
(2) ^{しもさかもとせいごう}下坂本清合遺跡出土^{そとぼ}小型卒塔婆（鳥取市気高町・12～13 世紀）

3 点中 2 点が完全な形で残っていた。これらは全長 14.6 cm、幅 2.2 cm、厚さ 1.1 cm のマツ属のやや厚い板材。先端部は山形で、両側面に切り込みを入れて、下端部に 1 本の軸が突出している。表面には、「^{なむあみだぶつ}南无阿弥陀佛」の墨書が認められる。これらは穴を開けた板などの台に立てて使われたものと推定され、大変珍しい形態。類例はわずかに佐賀県の^{じょうぼるさんぼんだにみなみ}城原三本谷南遺跡で認められるにすぎない。

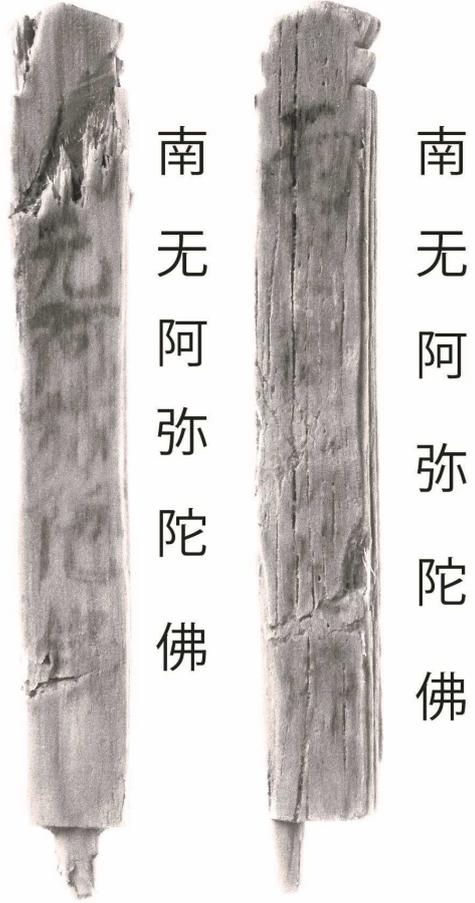
(3) ^{もんぜんちんじゅやま}門前鎮守山遺跡出土墨書土器（西伯郡大山町・15 世紀）

直径約 3m、深さ 1m の大型の穴から土師器の^{つぎ}坏が大量に出土。大きさは底部径 5 cm 前後、高さ 3.5 cm 前後、口縁径 11 cm 前後で、13 点の坏の底面や側面に墨書が確認された。文字は、「普」3 点、「土」「佛」「祖」「率？」が 1 点ずつ、不明が 6 点である。組み合わせることで「^{ふてんそつど}普天率土」（“世界のあらゆる場所”の意味）など何らかの文になると思われるが、目的や詳細は不明。「佛」の文字があることや地名が「門前」であることなどから、寺院に関係する遺跡である可能性が高い。

4 写真



会下・郡家遺跡出土人形
(右：赤外線)



下坂本清合遺跡出土卒塔婆(赤外線)



門前鎮守山遺跡出土墨書土器
(左：底面集合 右上：「普」 右下「祖」)

